

表紙の答えはこれ！

モエレ沼

1

アイヌ語の「モイレ・ペツ・トー」（静かな、流れの遅い川・沼）に由来し、ゆったりとした水の流れからこう呼ばれていたと考えられています。昔は卵形でしたが、明治時代にS字に近い形に変わり、大正時代に現在のような馬蹄形（U字形）になりました。



入植当時の丘珠の様子
〔北海道大学附属図書館北方資料室所蔵〕

伏籠川

4

アイヌ語の「フシコ・サツポロ・ベツ（古い札幌川）」が語源。以前は豊平川の下流部分でしたが、洪水により本流が移動したため、伏籠川は本流と離れわき水を水源とする川となりました。東区のほぼ中央を流れ、両岸には肥沃な土地が広がっています。

丘珠

2

アイヌ語の「オツカイ・タム・チャラパ（男が刀を落とした所）」が語源。その前半部に丘珠という字が当てられました。当初「おかたま」と呼んでいましたが、戦後、丘珠飛行場に進駐したアメリカ軍が「OKADAMA」と表記したため、地元の人たちも「おかたま」と呼ぶようになりました。

名前の起源 いろいろ

町の名前、山・川の名前、慣れ親しんでいる地名には、さまざまな由来があります。そして、そこにはその土地で暮らしてきた人たちの思いや愛情が込められています。その土地の歴史そのものなのです。



札幌

3

昭和16年、この地域にあった札幌村第四国民学校が札幌国民学校と名前を変えたところから、この地域も「札幌」と呼ぶようになりました。札幌村の「札」と字苗穂の「苗」を取って「札幌」としたと言われています。



JR苗穂駅南側から見た東区の街並み

伏古本町

5

「伏古」は昭和50年代の区画整理により、伏籠川に沿った特定の地域が、川の名を取って名付けられました。「本町」は、地元では「もとまち」としたかったが、既に「元町」があったため、「本町」と書き「ほんちょう」と呼ぶようにしたと言われています。

広告

